

## レポート提出と演習の意義

過去問題を演習課題として解き、レポートとして提出してもらい、提出されたレポートの解答例について紹介し、解説します。なお、解説の際には、OHC（カメラ）を使ってスクリーンに提示します。

過去問題を解く意味は

- ・問題の形式に慣れ、出題の傾向を知る
- ・問題の解き方自体を身に付けていく
- ・問題を解くことを通じて、授業内容を再確認する
- ・自分自身の理解が不十分な点を把握する

ということにあります。

授業時間内に解答例について解説する理由は、これらの点を共有するために他なりません。

従来は、このレポートを提出することを定期試験の受験の条件としていましたが、とりやめました。つまり、レポートの提出は任意です。解答する年度や問題数も自由です。また、レポート自体は評価には加えません。

レポートの提出を義務づけていた理由は、本来、学習というものは自主的に進めるべきもの（そして、そうした習慣はなるべく早く身につけるべきもの）という理念を重視しつつ、何らかのきっかけや「お膳立て」が必要という現実を考えたからです。

しかしながら、提出を義務づけていても、十分に考えたとは思えないとんでもない解答、また、それをそのままコピーした解答が多数含まれており、これでは提出してもらいう意味がないどころか、むしろ逆効果と判断し、自分で真面目に解答した人のレポートについてのみコメントすることにしました。

したがって、以下のようなレポートは提出してもらいたくありません。

<やめてもらいたいこと>

- ・指定の用紙以外に解答を記載する
- ・両面印刷して解答を記載する
- ・小さな字、汚い字など読みにくい字で記載する  
→これらは、OHCでうまく表示できないので、解説の対象から除外します。

<意味のないこと>

- ・他人の解答を丸写して提出する
- ・ほとんど白紙（無回答）の状態、あるいは解答途中の状態のものを提出する
- ・期限後あるいは演習問題解説のあとに提出（追加提出、再提出を含む）する

逆にいえば、できるだけ多くの問題を自分で解いて、第1回と第2回の締切までにそれぞれ提出し、解説の時間に自分の解答を確認する、というのがもっとも正しい方法です。

試験問題は「このような問題を解けるようになってほしい」という担当者からのメッセージであるともいえます。過去問題を自力で解く努力をした人は、本番の試験においてもそれなりに結果が伴ってくると思います。

(2015年11月5日 小堀 聡)